

# PMR 資格試験への挑戦 3

## 他流試合の経験を

株式会社竹中工務店 名古屋地区 FMセンター 主任  
平松 孝一

### ■ 受験動機

私は本社の FM（ファシリティマネジメント）本部にいた際に、会社から受験支援を受け PMS を取得する機会に恵まれました。名古屋支店から本社へ異動してまだ 2 か月の春でした。当時は「（大学院で FM の研究はしていたが）本当に本社でやっていけるのか」「（現場監督の仕事とは）考え方・進め方も全く違うはず」等、何か指針となるものを求めている状況でした。

無事に PMS を取得し、プログラムとプロジェクトの考え方をベースに日々の業務や社内アイデアコンペに取り組み一定の成果を上げることができました。

昨年 4 月に現在の部署へ異動し、FM 本部での 3 年間で社外の視点で評価してもらいたいと思い、今回 PMR へ挑戦することにしました。夜間工事の現場責任者を 2 つこなしながらの受験となりました。

### ■ 受験の感想

副題を「他流試合の経験を」としましたが、二次試験では異業種の方とディスカッションする貴重な経験を得ることができました。本社でもコンサルタント・リサーチ会社・システム開発会社・動画制作会社・IT スタートアップ企業・海外 FM 企業と様々な会社様と仕事やヒアリングをする機会に恵まれ、その度に自社内だけで通じる文化や不文律が多くあることを肌で感じましたが、今回の試験でもそれを再確認することができました。そうした体験をする度に自分の中にある「当たり前」を発見・修正することができ、多くの方と協力する術を得ることが出来ます。また、全国から受験者が集まるため、それぞれの地元の話も伺うことができました。和気あいあいとした雰囲気の中、時に審査員の方の手厳しいご指摘も受けながら緊張感のある試験でした。論述試験では現業での目線ではなく、経営層としての観点での回答が求められるため、本社で役員・本部長クラスのお話を近くで聞いたことが何とか対応できた要因かと思えます。しかし、全く携わったことのない事例も出題され自身の経験不足を痛感することにもなりました。

### ■ PMR としての展望

今回 2020 年度は二次試験受験者が全員合格だったようです。「誰一人取り残さない」という SDGs のスタンスが重要視される昨今、全員でディスカッションをし、全員で案を取りまとめ、全員が合格できたというのはまさにその体現だと思えます。審査員・事務局・受験生の方々、ありがとうございました。PMR としてプログラムの組み方やプロジェクトの進め方など技術的な面の高度化もさることながら、関係者を巻き込み、多くの方が自分の想いを実現することができる中心人物になっていければと思います。

仕事としては、大学時代から研究していた FM の推進と現業のリニューアル工事の発展をミッションとして、自社だけではなく日本の建設業界や現在発展しこれから FM が重視されるようになるアジアの新興国などへ良い影響が与えられればと考えています。



【プロフィール】 平松 孝一（ひらまつ こういち）

見積部プロジェクトリーダー 2 年・現場監督 4 年を経て、本社 FM 本部にて PMS を取得。竣工後のアフターケア・FM 支援に関する品質保証の企画や FM 業務の標準化に向けたシステム開発・例規改定を担当。現在はオフィスビルの大規模改修現場の監理技術者及び所属組織の業務改革 WG にて本社・他本支店との調整やマニュアル作成時の例規対応等を担当。

・保有資格：一級建築士・認定ファシリティマネジャー・建築設備総合管理士・PMR